

製品安全データシート
グレード名

SAK-CS-PPT-1

作成日：2009年05月11日
改定日：2018年03月05日

1. 化学物質等及び会社情報

製品名： 金属石鹼
会社名： 株式会社 サンエース
住所： 〒243-0303 神奈川県愛甲郡愛川町中津4058
電話番号： 046-285-0826
緊急時の電話番号： 046-285-0826
FAX番号： 046-286-7177
推奨用途及び使用上の制限： 滑剤、撥水剤、分散剤、安定剤原料

2. 危険有害性の要約

GHS分類

ラベル要素

絵表示又はシンボル： なし

注意喚起語： なし

危険有害性情報： なし

注意書き：

【安全対策】

取り扱い後はよく顔、手等を洗うこと

【救急処置】

眼に入った場合： 水で数分間注意深く洗うこと。
次にコンタクトレンズを着用していて容易に
外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合： 医師の診断/手当てを受けること。

3. 組成、成分情報

単品、混合物分類： 工業的単一
化学名又は一般名： ステアリン酸カルシウム
別名： 脂肪酸カルシウム塩
化学式： $C_{36}H_{70}O_4Ca$
CAS番号： 1592-23-0, 85251-71-4
官報公示整理番号 (2)-611
労働安全衛生法・通知・表示対象物質： 該当なし
化学物質排出把握管理促進法： 該当なし

4. 応急措置

吸入した場合： 被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時は、医師に連絡すること

皮膚に付着した場合： 水と石鹼で洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。

目に入った場合： 水で数分間注意深く洗うこと。
次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。
その後も洗浄を続けること。

飲み込んだ場合： 口をすすぐこと。
気分が悪い時は、医師に連絡すること

予想される急性症状及び
遅発性症状： 吸入した場合： 咳
飲み込んだ場合： 吐き気、嘔吐、下痢を伴う胃痛。

最も重要な兆候及び症状： データなし

5. 火災時の措置

消火剤： 火災の種類に応じて適切な消火剤を用いる。
特有の危険有害性： 加熱により発火する。
特有の消火方法： 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
保護具を着用し、風上から消火に当たる。
消火を行う者の保護： 消化作業の際は適切な空気呼吸器、化学保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具
及び緊急時措置： 作業者は適切な保護具（「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を
着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
関係者以外の立入りを禁止する。
密閉された場所は換気する。

環境に対する注意事項： 環境中に放出してはならない。
河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。

回収、中和： 少量の乾燥した漏れの場合、漏洩物は清潔なシャベルを用いて、清潔な
乾燥した容器に入れ、ゆるく覆いをして漏洩場所から移す。
大量の場合、水で湿らせ、防護囲いをし、後で廃棄処理する

封じ込め及び浄化の方法・機材： 危険でなければ漏れを止める。
二次災害の防止策： すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。
プラスチックシートで覆いをし、散乱を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 技術的対策： 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
局所排気・全体換気： 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行なう。
安全取扱い注意事項： 火気注意
周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。
眼、皮膚との接触を避けること。

接触回避：	取扱後はよく顔、手等を洗うこと。
保管	「10. 安定性及び反応性」を参照。
技術的対策：	保管場所には取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設定を設ける。
混触危険物質：	「10. 安定性及び反応性」を参照。
保管条件：	熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。-禁煙。 酸化剤から離して保管する。 冷所、換気の良い場所で保管すること。 容器を密閉して保管すること。
容器包装材料：	包装、容器の規制はないが密閉式の破損しないものに入れる。
<hr/>	
8. ばく露防止及び保護措置	
管理濃度：	設定されていない
許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）：	
日本産業衛生学会	吸入性粉塵 2mg/m ³ (その他の無機及び有機粉塵) 総粉塵 8mg/m ³ (その他の無機及び有機粉塵)
ACGIH	設定されていない
設備対策：	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には眼洗浄施設と安全シャワーを設置した方が良い。 空気中の濃度を制御するには一般適正換気で充分である。
保護具	
呼吸器の保護具：	ほとんどの条件で呼吸保護は不要だが、適切な呼吸保護具を着用すること。
手の保護具：	適切な手袋を着用すること。
眼の保護具：	眼、顔面用の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具：	適切な保護衣を着用すること。
衛生対策：	取扱後はよく顔、手等を洗うこと。
<hr/>	
9. 物理的及び化学的性質	
物理的状態、形状、色など：	粉末
臭い：	無臭
pH：	データなし
融点・凝固点：	145-160 °C
沸点、初留点及び沸騰範囲：	データなし
引火点：	データなし
爆発範囲：	データなし
蒸気圧：	データなし
蒸気密度（空気=1）：	データなし
比重（密度）：	1.08 g / cm ³ (25/4 °C)
溶解度：	水、エタノール、エーテルに不溶。熱エタノールに難溶。 熱ベンゼン、熱石油ベンジン、熱テレピン油に可溶。
オクタノール/水分配係数：	データなし
自然発火温度：	約400 °C
分解温度：	データなし
臭いのしきい（閾）値	データなし
蒸発速度（酢酸ブチル=1）：	該当しない
燃焼性（固体、ガス）：	データなし
粘度：	該当しない
<hr/>	
10. 安定性及び反応性	
安定性：	通常の条件では安定である。 乾燥状態では、攪拌、空気輸送、注入などにより静電気を帯びることがある。 加熱すると分解し、刺激的な煙や有毒なヒュームを生じる。
危険有害反応可能性：	強酸化剤や強酸と反応する。
避けるべき条件：	粉塵と火種の接触を避けること。粉塵爆発の恐れあり。
混触危険物質：	情報なし
危険有害な分解生成物：	酸化カルシウム、炭酸カルシウム、一酸化炭素、二酸化炭素
<hr/>	
11. 有害性情報	
急性毒性：	経口 ラット LD50 > 10 g / kg (RTECS) から区分外。 皮膚 データがなく分類できない 吸入（気体） GHSの定義における固体 吸入（粉じん） データがなく分類できない ただし、大量に吸入すると、鼻、のど等を刺激することがある。
皮膚腐食性・刺激性：	データがなく分類できない
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性：	データがなく分類できない
呼吸器感受性又は皮膚感受性：	データがなく分類できない
生殖細胞変異原性：	データがなく分類できない
発がん性：	データがなく分類できない
生殖毒性：	データがなく分類できない
特定標的臓器・全身毒性 （単回ばく露）：	データがなく分類できない
特定標的臓器・全身毒性 （反復ばく露）：	データがなく分類できない
吸引性呼吸器有害性：	データがなく分類できない
<hr/>	
12. 環境影響情報	
水生環境急性有害性：	データがなく分類できない
水生環境慢性有害性：	データがなく分類できない

オゾン層への有害性： 本物質はモントリオール議定書の付属書に列記されていない。

1 3. 廃棄上の注意：	
残余廃棄物：	廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
汚染容器及び包装：	

1 4. 輸送上の注意	
国際規制	
海上規制情報	非危険物
航空規制情報	非危険物
国内規制	
陸上規制情報	非該当
海上規制情報	非危険物
航空規制情報	非危険物
特別の安全対策	輸送に際しては直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。 重量物を上積みしない。

1 5. 適用法令	特になし
-----------	------

1 6. その他の情報	
記載内容の取り扱い	記載内容は現時点で入手できる資料、情報に基づいて、当該製品の取り扱い、使用、処理、保管、輸送、廃棄、漏洩の処理等を安全に行なうべくするために作成されたものであり、情報はいかなる保証をするものではありません。また注意事項は通常の実施を前提としたものなので特殊な取扱いの場合には用途・用法に適した安全対策を実施の上ご利用ください。

- 参考文献
- 1) 厚生労働省 職場の安全サイト モデルSDS
 - 2) NITE 化学物質総合情報提供システム
 - 3) NITE 政府によるGHS分類 (2017年10月更新分)
 - 4) 日本産業衛生学会 許容濃度の勧告 2017年版
 - 5) United States Department of Labor : Occupational Safety and Health Administration
 - 6) 原料メーカーSDS
 - 7) LOLI Desktop